



平成24年 水稻管理情報

No.5 (7月2日発行)

1. 穂肥の施用

○ひとめぼれは7月上旬～中旬(ヒノヒカリは7月下旬～)が穂肥適期です。葉色が薄くなってきたら、幼穂1cm(出穂20日前の目安)を確認して施用しましょう。

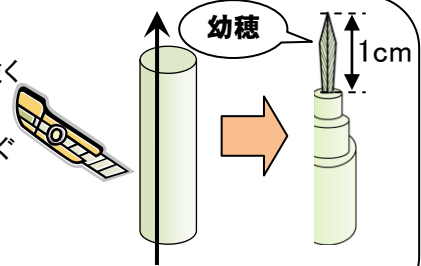


早く施用すると!?

- ・ 粃が多くなりすぎる
- 充実不足に
- ・ 倒伏しやすくなる

～幼穂の見方～

- ①主茎(一番大きな茎)を抜く
- ②葉を一枚ずつ剥いていく
もしくは、カッターで薄く削ぐ
- ③最後にウツカリ折らない
ように注意する
- ④幼穂の長さを測る



※根本から先端へ。真ん中を少し外す

一般

NK30 20kg/10a

特裁

特裁米用 047

(ヒノ) 30kg/10a

(ひとめ) 20kg/10a

! ポイント!



一発肥料を使った場合→葉色が薄くても穂肥は不要です
葉色が濃い場合→施用時期を遅めに、量を少なめに施用しましょう

2. 稲こうじ病に注意

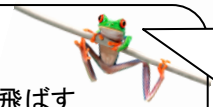
○近年、稲こうじ病が慢性的に発生するほ場が目立ってきています。



原因: 粃が菌に感染することで発病(粃以外には感染しない)

参考: 発生メカニズム

- ①第一次感染源は前年度の菌核
- ②地上で越冬後、20℃を超すと活動再開、胞子を飛ばす
- ③穂ばらみ期の稲止葉上に落下
- ④降雨時の水と共に葉鞘内へ侵入、出穂前の幼花器に感染



[こういう環境を好みます]

- ◆ 山間地&盆地
- ◆ 出穂前の低温
- ◆ " 多雨
- ◆ 前年の多肥

! ポイント!



出穂後は効果無し

穂肥多用、遅延 NG

病穂は取り除く

毎年コツコツと

薬剤 : **モンガリット 1 キロ粒剤**

散布方法: **湛水散布**(水深 **3cm** 以上)

散布時期: 穂肥施用と同時期

散布後3~4日は水貯めつぱなし

1週間は落水、掛け流ししない

JAおおいた竹田事業部 農産課

63-4994

豊肥振興局農山村振興部集落・水田第二班

63-1172